

地方独立行政法人大阪産業技術研究所
令和5事業年度の業務実績に関する評価結果

令和6年8月

大 阪 府

大 阪 市

目 次

1	地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1 ページ
2	全体評価	2 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
	＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
	① 法人の基本的な目標	
	② 令和5事業年度における重点的な取組	
	③ 特筆すべき取組	
	④ 課題	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3	大項目評価	
3-1-1	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等）	7 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援）	9 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-2	「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	10 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-3	「財務内容の改善」及び	
3-4	「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	11 ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり令和5事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

（評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人が目指す「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

（評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目・大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認や法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、I～Vの5段階で自己評価を行う。

② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和5事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示す「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1から3まで、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善・その他業務運営に関する重要事項」の5つの大項目について、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
 - ① 金属3D造形技術の研究・試験評価を行う「3D造形技術イノベーションセンター」や次世代高速通信Beyond5Gに向けた材料開発を支援する「先進電子材料評価センター」における企業支援研究等、大阪技術研が保有する知見や技術ノウハウ等の強みを活かした技術支援を実施し、また、時代のニーズに対応するプロジェクト研究をはじめとした研究開発の推進や、企業ニーズを踏まえた技術者研修の実施など人材育成の支援に積極的に取り組むとともに、産業支援機関や金融機関等との連携をより一層深めるため、新たに連携交流会を開催するなど、産学官連携の推進に向けた様々な取組を実施し、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する計画を実施した。
 - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化と効率的な予算執行等に計画的に取り組むほか、「財務内容の改善」、「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「**全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している**」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。

多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、企業支援研究及び産業人材育成等に積極的に取り組んで企業の課題を解決するとともに、技術シーズの創出に必要な基盤研究や、時代のニーズに応える分野についての戦略的な研究、「国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)ムーンショット型研究開発事業」をはじめとした競争的研究に積極的に取り組んでいることを高く評価した。引き続き、和泉及び森之宮センターが保有する優れた技術力等の強みを活かし、企業支援研究に取り組むとともに、顧客満足度の向上や新たなサービスの拡充、オープンイノベーションの推進による一気通貫の企業支援など、ものづくり中小企業への支援サービスの向上に積極的に取り組まれることを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上(5~9ページ)	1	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	2	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	3	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化(10ページ)		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善及びその他業務運営に関する重要事項(11ページ)		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和5事業年度の重点的な取組等を
総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

<全体評価に当たって考慮した事項>

① 法人の基本的な目標

- 和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等のサービスの向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題、成長産業分野への参入や海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- 両センターのネットワークや優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進、成長分野・時代のニーズに対応した戦略的な研究開発、国際基準対応及び企業が求める技術者の育成の支援に取り組み、企業の成長・発展に積極的に貢献するとともに、技術支援や研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”を目指す。
- 顧客満足度の向上に取り組み、顧客の拡大や効率的な業務運営で得られた収益を更なる支援に投資、企業に還元する好循環を生み出す運営を目指す取組を推進する。

② 令和5事業年度における重点的な取組

- 「3D造形技術イノベーションセンター」および「先進電子材料評価センター」における企業支援研究の実施
- 時代のニーズに対応した戦略的な研究の推進
- 金属3D造形に関する技術者育成事業の実施
- 大阪ヘルスケアパビリオン「出展・展示ゾーン」事業の推進
- 万博を契機としたものづくり中小企業の技術開発支援事業（Beyond5G 開発支援）の推進
- 関西広域産業共創プラットフォーム事業への参画

- ③ 特筆すべき取組（（１）全体評価「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）
- ・利用者満足度の的確な把握に向けた、アンケート回収方法の改善
 - ・大阪ヘルスケアパピリオンにおいて、中小企業・スタートアップの新技術を発信する取組「リボーンチャレンジ」の実施主体として活動を本格的に開始
 - ・関西広域産業共創プラットフォーム事業を通じた技術相談の対応及び域内公設試との連携の推進
 - ・両センターの勤務労働条件の一本化に向けた就業規則等の一部改正
 - ・法人経営本部に企画部、総務部、業務部の３部を設置し、管理部門の一元化・効率化を推進
 - ・研修や契約、広報活動等、両センター共通業務を一元的・効果的に実施
 - ・利用者により分かりやすい支援サービスの提供に向けた、支援メニューの名称の検討・改定
- ④ 課題
- ・知的財産の出願・秘匿化の推進に係る取組

（２） 評価に当たっての意見、指摘等

- 「NEDOMーンショット型研究開発事業」をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価する。
- 企業からのニーズに応える研修等を前年度よりも多く実施し、「人材育成延べ人数」が目標値を大きく上回るなど、企業の求める技術者の育成について積極的に支援したことを高く評価する。
- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」については、中期目標期間における目標達成に向けて、引き続き課題等について分析し、必要な措置について検討を進められたい。

3 大項目評価

3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

来所、電話、インターネット等の多様な相談方法を通じて企業の課題解決に取り組み、数値目標に掲げた「利用満足度」が目標値を上回った。また、締切の1週間前にリマインドメールを行うなど、利用者アンケートの回収方法を工夫したり、運営改善に向け、アンケート結果を所内で共有する等、利用者の声の的確な把握及び利用満足度の維持・向上に向けて適切に取り組んでおり、「多様な企業ニーズに応える技術相談の充実」について年度計画を上回って実施していると判断した。

令和3年度に開設した「先進電子材料評価センター」については、誘電特性評価システムの測定可能範囲を拡張するなど支援体制の強化を行うとともに、所内に整備している各センターについて、技術講習会等を通じて周知に努め、高度な技術サービスを提供するなど、「多様な技術分野における高度な依頼試験と設備機器の開放」について年度計画に沿って着実に実施していると判断した。

多様な企業ニーズに応えるため、「3D造形技術イノベーションセンター」や「先進電子材料評価センター」を活用した研究を積極的に実施するとともに、高度受託研究、共同研究、開発研究型受託研究といった企業伴走型の研究に取り組み、企業の技術開発・製品開発を支援しており、「多様な企業ニーズに応える企業支援研究の推進」について年度計画に沿って着実に実施していると判断した。

以上、1項目が計画を上回り、他の4項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢ又はⅣに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援(1~5)	5	0	1	4	0	0
合計	5	0	1	4	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ 多様な企業ニーズに応える技術相談の充実(1)【IV】

- ・ 来所相談、電話相談、インターネット相談、展示会やセミナー会場ブースでの相談等を実施した。その結果、両センターで73,548件（前年度比93.6%）の技術相談に対応した。
- ・ Web会議システムを活用したオンライン技術相談を860件（前年度比74.8%）行った。
- ・ より多くの顧客ニーズを把握するため、Webによるアンケート調査を実施し、数値目標に掲げた「利用満足度」は、目標値を大きく上回る平均97.6%であった。なお、締切の1週間前にリマインドメールを行うなど回収方法を工夫することで、回答率が43.6%に大幅に増加した(前年度28.8%)。また、アンケートで利用者から要望等のあった内容については、所内の関係部署間で共有し、運営改善に向けて活用した。

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は上回って実施していると認められる。

3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

時代のニーズに応える分野・テーマについての戦略的な研究では、新たなプロジェクト研究にも取り組むとともに、大学等との共同研究のほか、JSTやNEDO等の競争的研究費を獲得して行う研究に積極的に取り組んだ。

また、数値目標に掲げた「競争的研究の実施件数」が目標値を上回っており、「技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進」について着実に実施していると判断した。

大阪技術研の保有する知見や技術ノウハウ等を活用して実施する技術者研修や、企業から研究員を受け入れて実施する共同研究等を通じた人材育成及び企業への技術移転に積極的に取り組むとともに、JKA補助事業の採択を得て重点事業である金属3D造形に関する技術者育成事業を実施した。

また、数値目標に掲げた「人材育成延べ人数」も目標値を大幅に上回っており、「産業を支える人材の育成」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上1項目が大幅に計画を上回り、他の1項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のⅢ又はⅤに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は2/2となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進(6)	1	0	0	1	0	0
産業を支える人材の育成(7)	1	1	0	0	0	0
合計	2	1	0	1	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ 産業を支える人材の育成（7）【V】

- 企業からのニーズに応える研修を設定するとともに、積極的なPRも行って、レディメード研修を13回（68名）、オーダーメード研修を28回（658名）実施した。なお、両研修による人材育成の延べ人数は726名（前年比242%）であった。
- 業界団体等からの講師派遣等の要請に応じて、職員派遣を112件行い、多数の人材育成に貢献した。
- 和泉センターでは、高度受託研究及び共同研究の実施において延べ73人の派遣研究員を企業より受け入れ、ORT（On the Research Training）研修により、人材育成及び企業への技術移転を効果的に行った。
- 森之宮センターでは、人材育成を目的とした受託研究を15件実施した。また、受託研究を通じて、290人の企業研究員を受け入れ、企業人材の育成などを行った。
- 採択されたJKA補助事業の人材育成事業において、金属3D造形に関する講習会と研修を実施した。基礎講習会（1回：73名参加）に加えて、少人数制トレーニングセミナーとして、設計技術コース（2回：8企業/8名参加）造形技術コース（2回：7企業/8名参加）により金属3D造形技術の普及に努めた。
- 業界団体などと連携し、セミナー及びシンポジウム等を34件（参加者延べ1,914名）開催した。そのうち11件はWebも活用して参加機会を拡げて、産業人材の育成に努めた。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は大幅に上回って実施していると認められる。
- 「NEDOMーンショット型研究開発事業」をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価する。
- 企業からのニーズに応える研修等を前年度よりも多く実施し、「人材育成延べ人数」が目標値を大きく上回るなど、企業の求める技術者の育成について積極的に支援したことを高く評価する。

3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援）

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

数値目標に掲げた「技術情報の発信件数」「知的財産の出願・秘匿化件数」については、中期目標の達成に向け、やや遅れが見られるものの、「企業支援成果事例集」を発行するなど、利用拡大に向けて様々なツールや機会を活用し、情報発信を行った。

また、大阪・関西万博に向け、大阪ヘルスケアパビリオンにおける「リボンチャレンジ」の実施主体として中小企業・スタートアップとの新技術の共同開発を開始するとともに、産業支援機関や金融機関等との連携を深める連携交流会を新たに開催するなど、産学官連携によるオープンイノベーションの推進に向けて積極的に取り組んでおり、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

1項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は1/1となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援(8)	1	0	0	1	0	0
合計	1	0	0	1	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 大阪・関西万博への参画や、支援機関等との連携促進に向けた取組など、産学官の連携強化に関する新たな取組を実施していることを評価する。
- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」については、中期目標期間における目標達成に向けて、引き続き課題等について分析し、必要な措置について検討を進められたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」について、法人経営本部への部門設置と人員の適正配置を行うなど、本部業務の一体的な運営体制の構築や就業規則等の一部改正を実施するとともに、利用者視点から見て分かりやすい支援メニュー名称の検討・改定や、研修や契約等の両センター共通業務を一元的に行うなど、業務運営の改善及び効率化に取り組んだ。また、「職員の確保と能力向上に向けた取組」について、両センターの採用業務の統一化を図りながら採用活動を効率よく実施し、研究職員5名・事務職員4名を令和6年度採用者として決定した。さらに、「情報システム化の推進」について、顧客登録データベースの維持更新やリモート操作による装置使用サービス等の支援業務のスマート化等に計画的に取り組み、利用者サービスの向上と業務効率の維持・改善を図った。

以上3項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は3/3となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営 (9)	1	0	0	1	0	0
職員の確保と能力向上 に向けた取組 (10)	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 (11)	1	0	0	1	0	0
合計	3	0	0	3	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

3-3 「財務内容の改善」及び

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」については、数値目標に掲げた「事業収入額(競争的研究費を除く)」の達成率は99%であり、「財務基盤の強化と予算の効率的執行」についても、予算執行状況の月次報告を行い、関係部署で共有し連携を図ることで電気料金等の高騰に対応するなど、着実に取り組んでいる。また、「施設の計画的な保全と有効活用等」及び「危機管理対策の推進・BCPの継続的改善」に計画的に取り組んだ。「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理の徹底」については、高圧ガス設置状況を随時把握するため、薬品管理システムによる高圧ガス管理法への切り替え等を行うとともに、「社会的責任の遂行のための取組」については、ファイル送信時のセキュリティ強化に向けた新しいメール送信システムの運用を開始するなど、個人情報の保護の徹底と情報セキュリティ対策の推進に向けた取組を実施した。

以上5項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施している	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、財務 基盤の強化と予算の効 率的な執行(12)	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な保全と 有効活用等(13)	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職 員の安全衛生管理の徹 底(14)	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・ BCPの継続的改善 (15)	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行のた めの取組(16)	1	0	0	1	0	0
合計	5	0	0	5	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。